

審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 第26回都道府県対抗ジュニアバスケットボール	期間 2013年3月27日(水)～3月30日(土)
開催地 東京、埼玉、千葉、神奈川	会場 大田区体育館など
参加者 大川 潤	所属地区名 札幌
講師 関口氏 田邊氏	
審判会議、講師からの事前のレクチャー内容など 「協力について」 ①プレーの見方(2人で見えない場面をつくってはいけない) ②一人でやらない(Boxing inを意識して見る) ③一人にしない(トラブルが起きた時に相手任せにしない) という観点について、受講生が感じていることを一人一人話し、その内容についてディベートを行った。私は、プレーの質、審判同士の基準の一貫性の協力について話をした。プレカンファレンスや、ゲーム中に話し合いがとにかく大切。	
実技研修、座学研修等の記録 主審 加藤 祭(神奈川) 副審 大川 潤 早稲田実業vs慶應(2Qのみ) 主任 関口氏、田邊氏	
プレカンファレンスでは、「3番エリアの引き継ぎについて」と「バイオレーションなど当り前のことを当り前に吹く」ことを話し合った。 ①トレイル時にリバウンドを見るためのペネトレーションがない。 ②ブロックショットは、触れ合いの確認にこだわる。 ③トレイル時に3番エリアによるのはいいが、リードの位置をみること。 ④リードがベースラインに近く、判定しづらい。 ⑤プレーの勝ち負けを判断して、ゲームの流れを考える。 というアドバイスをいただいた。	
実践実技1	
2013年3月28日(木)	対戦カード 予選リーグ 石川vs埼玉(男子)
副審 大川 潤	相手審判 静岡県 青山 宜正氏
ゲーム前のカンファレンス内容 ①3番エリアの引き継ぎ ②バイオレーションの確認。 ③時間などをTOとしっかり確認する。 ④お互いゾーンディフェンスなので、スキップパスなどに対応できるように相手審判の位置をしっかりと確認すること。 ⑤ドライブ中心となるので、しっかりペネトレートして判定しに行く。	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 全体を通して、よかったという話であったが、以下が反省点である。 ①こうなるだろうと決めつけて吹かない。 ②時間など、すべての確認を怠らない。 ③リードの動きが右に行ききれてなく、ゴール下にステイしまう。 ④触れ合いが、「偶発的」か「意図的」か見極める。	

ゲーム感想

初めての全国大会ということで、不安な部分もあったが、相手審判と協力しながら判定することができた。延長戦にもつれるクロスゲームであったが、最後まで集中して判定することができた。
ゾーンディフェンスに対する見方などはこれからすぐに改善しなくてはいけないと感じた。また、相手審判の位置を見て、10人の選手と相手審判をすべてボクシングインする意識が薄いと感じた。
全体を通して、落ち着いて毅然とした態度でレフリーをすることができたのは、とても自信となった

実践実技2

2013年3月29日（金）	対戦カード	決勝トーナメント1回戦	大分vs千葉(女子)
主審	大川 潤	相手審判	愛知県 渡邊 香織氏

ゲーム前のカンファレンス内容

- ①3番エリアの引き継ぎ
- ②バイオレーションの確認
- ③時間などをTOとしっかり確認する
- ④千葉県#4の長身の選手に対する守り方(ポジション取り、リバウンド)

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス

- ①6番エリアの見方(二人とも見ているが、判定していない)
- ②3番エリアからのミドルドライブの見方(もっと右に行くタイミングを早くする)
- ③ベンチ管理(エラーが起きた時に、すぐに対応しないとベンチの不信感につながる)
- ④バイオレーションの確認

ゲーム感想

当日の朝、急遽割り当て変更があり、副審から別ゲームの主審に変わった。相手審判は、年齢は若いですが、公認歴が長い方だったので、安心して試合に臨むことができた。前日の反省を生かして、時間などの確認を徹底して行う事ができた。大分のプレースタイル(速攻中心・アウトサイドシュート中心)に対処することができ、相手審判とも会話を絶えず行い、協力して判定することができた。速攻時に相手審判の位置を確認して、トレイルから思い切りペネトレーションして判定することができたことができ、成長できたと感じた部分である。
アドバンテージをとり、ファールを吹かない場面があったが、ゲームが荒れる原因になるので、吹いた方がよかった。また、相手審判と視野がかぶっていると気づいた時点で具体的にどう動くのか話すことが必要である。

2013年3月30日（土）	対戦カード	決勝トーナメント準決勝	福岡vs神奈川(男子)
副審	大川 潤	相手審判	大阪府 石川 淳也氏

ゲーム前のカンファレンス内容

- ①3番エリアの引き継ぎ
- ②バイオレーションの確認
- ③時間などをTOとしっかり確認する
- ④思い切って吹くこと(メンタル面)
- ⑤身長 mismatch について

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス

- ①ショット、ターンした後など最後の最後までスペースを確認できる位置取りにこだわる。
- ②リードで右に行くか、後に下がることで全体が見える。(Defが大きく、判定出来ない時があったので)

ゲーム感想

初めて全国大会に参加させてもらい、いきなりの準決勝の割り当てをいただき、自分で大丈夫だろうかという不安と思いきりやろうという期待の気持ちが胸が一杯だった。しかし、今までやってきたことしかできないので、「いつも通り」ということを忘れずに試合に臨めた。

石川氏にプレカンファンレスや試合中に声をかけていただき、メンタル面では何も問題なかった。

全国大会ということで、予想しないレベルの高いプレーがいくつか出てきて、判定出来ない時があった。自分で「こうなるだろう」と決めつけてしまうことで、予測することをやめてしまっているの、自分で決めつけずに、判定する準備を常にしておく必要がある。

まとめ

初全国でいきなりの準決勝ということで、とても貴重な経験ができた。これまで、北海道で指導していただいた事を全力で表現することでこのような高評価をいただけ、とても自信になった。今までやってきた事が間違いなかったことが証明された。そして、多くの仲間に出会え、アドバイスをし合い、研鑽を積むことができた。また、モチベーションも上がったので、仲間とのつながりを大切にしていきたい。

この大会で感じた事は、「確認することの大切さ」である。AA級の方は、コート上の人数や時間の確認など当たり前のことを絶対に疎かにせず、確認していた。そのような謙虚でひたむきな姿勢が、選手・コーチ・観客からの信頼につながるし、判定する立場の私たち審判員には絶対に必要なことだと感じた。

また、多くの方から「地元の帰ってからが大切」という話をいただき、本当にその通りだと感じている。地元のローカル大会であろうと、今回のようなモチベーションで審判活動を行い、北海道の仲間達によい影響を与えられる審判員になりたいと強く感じている。このような機会を与えていただいた道協会森野理事長様をはじめ、審判委員長に加藤委員長様のご配慮に厚く感謝いたします。ありがとうございました。